

事務事業評価シート（ 1 / 2 ）

評価年度 令和 7 年度 進捗区分 2 次評価
所属 0001231510 こども発達支援課施設管理係
事務事業 02996 こども発達支援センター施設管理事業

電話番号 77-7795

【基本情報】

計画回数	03	第 9 次安城市総合計画			
重点戦略	001	しくみ			
分野別	001	1 子育て			
施策の取組	004	子ども・子育て家庭の状況に応じた支援			
事務事業	004	こども発達支援センター施設管理事業			
事業期間	平成30年度 ~				
実施方法	直営				
会計区分	一般会計	事業区分	政策的	性質別費目	
重点戦略		マニフェスト			
根拠法令等	安城市こども発達支援センターの設置及び管理に関する条例				
備考					

【事業分析】

対象	施設利用者が
目的	気軽に安心して施設を利用することができるようにします。
手段	施設利用者が快適に過ごすことができるように、施設の適切な管理運営を行います。
事務内容	施設の適正管理、建物・備品等の修繕、図書業務等

【コスト】

（単位：千円）

	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度
	決算額	決算額	予算額
トータルコスト	75,986	60,754	66,228
事業費	62,586	46,154	51,628
国庫支出金	0	0	0
県支出金	0	0	0
地方債	0	0	0
その他	0	0	0
一般財源	62,586	46,154	51,628
人件費計	13,400	14,600	14,600
正規（人）	2.00	2.00	2.00
その他経費	0	0	0

	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度
【事務事業活動実績】	子ども発達支援センターの管理・運営(施設の適正管理、設備修繕等)、施設内イベント・会議の企画、視察対応、図書業務、通園バス 2 台更新	こども発達支援センターの管理・運営(施設の適正管理、設備修繕等)、施設内イベント・会議の企画、視察対応、図書業務	こども発達支援センターの管理・運営(施設の適正管理、設備修繕等)、施設内イベント・会議の企画、視察対応、図書業務 予定

事務事業評価シート（ 2 / 2 ）

2 頁

令和 8 年 8 月 12 日
15 時 02 分 55 秒

評価年度 令和 7 年度 進捗区分 2 次評価
所属 0001231510 こども発達支援課施設管理係
事務事業 02996 こども発達支援センター施設管理事業

【 定量評価 】 上段：目標値 下段：実績値

指標名	単位	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度
修繕実施件数	件	0.00	15.00	10.00
		15.00	8.00	0.00
施設管理に係るクレーム(意見等含む) 件数	件	0.00	0.00	0.00
		0.00	0.00	0.00

【 定性評価 】

カテゴリ		評価の観点		基準		ランク
1	必要性	国・県・民間等との補完性	1	国・県・民間等がサービスを行っていない		1
			2	国・県・民間等のサービスは不十分で、市で補完する必要がある		
			3	国・県・民間等が同様のサービスを行っている		
	理由		市の施設であるため管理を行う必要があります。			
2	必要性	市民ニーズの有無	1	市民ニーズは充分にある		1
			2	社会情勢の変化等により市民ニーズは低下している		
			3	市民ニーズはない又は不明である		
	理由		安全安心に利用してもらうため施設の適切な管理が必要です。			
3	有効性	目標に対する進捗状況	1	目標を上回る又は目標どおりの進捗である		1
			2	目標を下回る進捗状況である		
			3	進捗はかなり遅れている		
	理由		支障無く施設の管理を行うことができます。			
4	効率性	事業の効率化・事業費の削減	1	事業手法の検討や事務改善に取り組み、具体的な成果を上げている		2
			2	事業手法の検討や事務改善に取り組んでいる		
			3	事業手法の検討や事務改善にあまり取り組めていない		
	理由		日々業務を見直し、効率的に運営しています。			
5	公平性	事業規模・サービス水準	1	環境変化や他自治体等と比較して適正である。		1
			2	環境変化や他自治体等と比較してあまり適正でない。		
			3	環境変化や他自治体等と比較して適正でない。		
	理由		施設規模に合った適切な管理をしています。			

【 1 次評価結果 】

事業の方向性	維持・継続
1 次コメント (4 0 0 文字)	こども発達支援センターあんステップは、発達相談支援室、やまびこルーム、サルビア学園及び地域交流図書コーナーがあり、様々な市民が利用する施設です。特に未就学児の利用が多いため、今後も必要に応じて施設の修繕を行うなど、安全面に十分配慮した施設管理を継続していきます。 また、年々施設内職員数が増加しているため、適切な執務環境を施設管理として検討していきます。

【 2 次評価結果 】

事業の方向性	評価未実施
2 次コメント (4 0 0 文字)	本事業においては、2 次評価を実施していません。

事務事業評価シート（ 1 / 2 ）

評価年度 令和 7 年度 進捗区分 2 次評価
所属 0001231520 こども発達支援課相談支援係
事務事業 02997 発達相談支援事業 電話番号 0566-77-7796

【基本情報】

計画次数	03	第 9 次安城市総合計画			
重点戦略	001	しくみ			
分野別	001	1 子育て			
施策の取組	004	子ども・子育て家庭の状況に応じた支援			
事務事業	005	発達相談支援事業			
事業期間	平成30年度 ~				
実施方法	直営				
会計区分	一般会計	事業区分	義務的 / 政策的	性質別費目	
重点戦略		マニフェスト			
根拠法令等	母子保健法・児童福祉法・障害者総合支援法・学校保健法・学校教育法				
備考					

【事業分析】

対象	発達に心配や遅れのある18歳までの子ども、その保護者並びに関係する各機関
目的	心身に障害のある子ども又はその疑いのある子ども及び保護者の福祉の増進を図ります。
手段	専門職による面接相談、電話相談、保育園等へ出向いての訪問相談、集団指導、保護者支援、グループ支援
事務内容	発達相談、就学相談、訪問相談、障害児（特定）相談支援事業、1歳6か月児健診事後指導会（親子教室）、ペアレント・プログラム教室、ソーシャルスキルトレーニング教室の実施継続

【コスト】

（単位：千円）

	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度
	決算額	決算額	予算額
トータルコスト	179,935	155,799	149,332
事業費	79,435	89,123	105,532
国庫支出金	1,701	1,816	2,002
県支出金	850	864	1,001
地方債	0	0	0
その他	40,407	39,485	49,000
一般財源	36,477	46,958	53,529
人件費計	100,500	65,700	43,800
正規（人）	15.00	9.00	6.00
その他経費	0	976	0

	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度
【事務事業活動実績】	発達相談（面談）2456件、就学相談832件、訪問相談121回、障害児（特定）相談支援事業5696件、1歳6か月事後指導会47回、ペアレント・プログラム教室23人、S S T教室6	発達相談（面談）2599件、就学相談862件、訪問相談102件、障害児（特定）相談支援事業6233件、1歳6か月事後指導会46回、ペアレント・プログラム教室15人、S S T教室6	発達相談、就学相談訪問相談、障害児（特定）相談支援事業、1歳6か月事後指導会、ペアレント・プログラム教室、S S T教室予定

事務事業評価シート（ 2 / 2 ）

2 頁

令和 8 年 8 月 12 日
15 時 03 分 03 秒

評価年度 令和 7 年度 進捗区分 2 次評価
所属 0001231520 こども発達支援課相談支援係
事務事業 02997 発達相談支援事業

【定量評価】

上段：目標値 下段：実績値

指標名	単位	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度
教室内容の満足度	%	0.00 100.00	90.00 100.00	90.00 0.00
教室参加後変化ありの割合	%	0.00 100.00	80.00 100.00	80.00 0.00

【定性評価】

カテゴリ	評価の観点	基準	ランク
1 必要性	国・県・民間等との補完性	1 国・県・民間等がサービスを行っていない 2 国・県・民間等のサービスは不十分で、市で補完する必要がある 3 国・県・民間等が同様のサービスを行っている	2
理由	実施機関が少ないため継続して実施していきます。		
2 必要性	市民ニーズの有無	1 市民ニーズは充分にある 2 社会情勢の変化等により市民ニーズは低下している 3 市民ニーズはない又は不明である	1
理由	子の発達に心配がある市民においてニーズがあります。		
3 有効性	目標に対する進捗状況	1 目標を上回る又は目標どおりの進捗である 2 目標を下回る進捗状況である 3 進捗はかなり遅れている	1
理由	子の発達に対し必要な支援を提供しています。		
4 効率性	事業の効率化・事業費の削減	1 事業手法の検討や事務改善に取り組み、具体的な成果を上げている 2 事業手法の検討や事務改善に取り組んでいる 3 事業手法の検討や事務改善にあまり取り組めていない	2
理由	相談記録において事務改善をし、効率化を図っています。		
5 公平性	事業規模・サービス水準	1 環境変化や他自治体等と比較して適正である。 2 環境変化や他自治体等と比較してあまり適正でない。 3 環境変化や他自治体等と比較して適正でない。	1
理由	他市でも実施しており、適正に実施しています。		

【1 次評価結果】

事業の方向性	維持・継続
1 次コメント (4 0 0 文字)	生後から 1 8 歳までの子やその保護者を対象に切れ目ない発達支援をするため、引き続き関係機関と協議や連携を図りながら適切な支援をしていきます。今後、支援対象者の増加が見込まれるため、切れ目ない支援が継続できるよう既存事業の見直しも含め検討していきます。 S S T 教室やペアレントプログラムは、子の発達に保護者が向き合う機会となるため、実施方法を見直ししながら継続して実施していきます。

【2 次評価結果】

事業の方向性	評価未実施
2 次コメント (4 0 0 文字)	本事業においては、2 次評価を実施していません。

事務事業評価シート（ 1 / 2 ）

1 頁

令和 8 年 8 月 12 日
15 時 03 分 12 秒

評価年度 令和 7 年度 進捗区分 2 次評価
所属 0001231530 こども発達支援課療育係
事務事業 02481 やまびこルーム事業

電話番号 0566-77-7912

【基本情報】

計画次数	03	第 9 次安城市総合計画			
重点戦略	001	しくみ			
分野別	001	1 子育て			
施策の取組	004	子ども・子育て家庭の状況に応じた支援			
事務事業	006	やまびこルーム事業			
事業期間	平成 3 年度 ~				
実施方法	直営				
会計区分	一般会計	事業区分	政策的	性質別費目	
重点戦略		マニフェスト	○		
根拠法令等	児童福祉法				
備考					

【事業分析】

対象	子どもの発達に心配がある親とその子どもが、
目的	子どもの発達の特性を理解し、親子共に成長していくことを目的とします。
手段	子どもの発達に心配がある親とその子どもが、地域の中で安心して生活するための相談や療育支援をします。
事務内容	親子グループ指導（1～3歳程度の乳幼児、0～5歳程度の未歩行児及び重症心身障害児）、就園後の療育支援、行事（父親参加、保護者向け研修会など）

【コスト】

（単位：千円）

	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度
	決算額	決算額	予算額
トータルコスト	56,813	59,796	64,640
事業費	23,313	23,296	28,140
国庫支出金	0	0	0
県支出金	0	0	0
地方債	0	0	0
その他	181	143	463
一般財源	23,132	23,153	27,677
人件費計	33,500	36,500	36,500
正規（人）	5.00	5.00	5.00
その他経費	0	0	0

	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度
【事務事業活動実績】	実施数：708 回 参加人数：135 組 発達に何らかの心配がある親子が集団療育や親子遊びを通して基本的な生活習慣や社会性の基礎を身につけられるよう支援しました	実施数：709 回 参加人数：122 組 発達に何らかの心配がある親子が集団療育や親子遊びを通して基本的な生活習慣や社会性の基礎を身につけられるよう支援しました	発達に何らかの心配がある親子が集団療育や親子遊びを通して基本的な生活習慣や社会性の基礎を身につけられるよう支援していきます

事務事業評価シート（ 2 / 2 ）

2 頁

令和 8 年 8 月 12 日
15 時 03 分 12 秒

評価年度 令和 7 年度 進捗区分 2 次評価
所属 0001231530 こども発達支援課療育係
事務事業 02481 やまびこルーム事業

【定量評価】 上段：目標値 下段：実績値

指標名	単位	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度
療育訓練参加者数	組	0.00 135.00	100.00 122.00	100.00 0.00
療育訓練参加者数 / 療育訓練希望者数	%	0.00 100.00	100.00 100.00	100.00 0.00
療育内容に対する満足度	%	0.00 98.00	80.00 97.10	80.00 0.00

【定性評価】

カテゴリ	評価の観点	基準	ランク
1	必要性	国・県・民間等がサービスを行っていない 国・県・民間等のサービスは不十分で、市で補完する必要がある 国・県・民間等が同様のサービスを行っている	1
2	理由	親子療育は国・県、民間が行っていない事業です	
2	必要性	市民ニーズの有無 市民ニーズは充分にある 社会情勢の変化等により市民ニーズは低下している 市民ニーズはない又は不明である	1
3	理由	参加人数の実績から、大きなニーズの低下はみられないです	
3	有効性	目標に対する進捗状況 目標を上回る又は目標どおりの進捗である 目標を下回る進捗状況である 進捗はかなり遅れている	1
4	理由	予定通り事業を進めています	
4	効率性	事業の効率化・事業費の削減 事業手法の検討や事務改善に取り組み、具体的な成果を上げている 事業手法の検討や事務改善に取り組んでいる 事業手法の検討や事務改善にあまり取り組めていない	2
5	理由	日々療育支援を見直し、効率化に取り組んでいます	
5	公平性	事業規模・サービス水準 環境変化や他自治体等と比較して適正である。 環境変化や他自治体等と比較してあまり適正でない。 環境変化や他自治体等と比較して適正でない。	1
	理由	他の自治体より手厚くサービスを行っています	

【1 次評価結果】

事業の方向性	維持・継続
1 次コメント (4 0 0 文字)	発達に心配がある事を保護者が初めて意識する時であるため、否定や不安な気持ちを保護者だけで抱える事が無いよう支援していく場は大切です。また、遊びや活動を通して親子共に成長を促していく支援場所が必要なため事業を継続していく必要があります。

【2 次評価結果】

事業の方向性	評価未実施
2 次コメント (4 0 0 文字)	本事業においては、2 次評価を実施していません。

事務事業評価シート（ 1 / 2 ）

1 頁
令和 8 年 8 月 12 日
15 時 03 分 21 秒

評価年度 令和 7 年度 進捗区分 2 次評価
所属 0001231540 こども発達支援課通所係
事務事業 02480 サルビア学園事業

電話番号 0566-77-7797

【基本情報】

計画回数	03	第 9 次安城市総合計画			
重点戦略	001	しくみ			
分野別	001	1 子育て			
施策の取組	004	子ども・子育て家庭の状況に応じた支援			
事務事業	007	サルビア学園事業			
事業期間	昭和50年度 ~				
実施方法	直営				
会計区分	一般会計	事業区分	政策的	性質別費目	
重点戦略		マニフェスト	○		
根拠法令等	児童福祉法、安城市立サルビア学園の設置及び管理に関する条例				
備考					

【事業分析】

対象	知的障害等のある幼児の
目的	社会生活への適応能力を養います。
手段	【児童発達支援事業】知的障害等のある幼児を日々保護者のもとから通園させ、日常生活に必要な基本的事柄を身につけられるよう療育支援します。 【保育所等訪問支援事業】保護者からの依頼により保育所等の施設を訪問し、本人と施設スタッフに必要な専門的助言を行い、児が集団生活に適応できるよう支援します。
事務内容	園児（知的障害等のある概ね3歳から就学前までの幼児）の日々の療育、入園児童の受付・決定事務、遠足・運動会・クリスマス会などの親子行事、保育所等への訪問支援など。

【コスト】

（単位：千円）

	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度
	決算額	決算額	予算額
トータルコスト	136,589	149,359	171,179
事業費	56,189	54,459	61,679
国庫支出金	0	0	0
県支出金	0	0	0
地方債	0	0	0
その他	56,189	54,459	61,679
一般財源	0	0	0
人件費計	80,400	94,900	109,500
正規（人）	12.00	13.00	15.00
その他経費	0	0	0

	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度
【事務事業活動実績】	4月55人（新21人） 途中入園 5人 年間実人数 60人 移行(転出含む)・卒園 27人 保育所等訪問支援 3件	4月51人（新18人） 途中入園 2人 年間実人数 53人 移行(転出含む)・卒園 20人 保育所等訪問支援 3件	4月51人（新18人）

事務事業評価シート（ 2 / 2 ）

2 頁

令和 8 年 8 月 12 日
15 時 03 分 21 秒

評価年度 令和 7 年度 進捗区分 2 次評価
所属 0001231540 こども発達支援課通所係
事務事業 02480 サルビア学園事業

【定量評価】 上段：目標値 下段：実績値

指標名	単位	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度
サルビア学園入所児童数	人	0.00 60.00	50.00 53.00	50.00 0.00
サルビア学園待機児童数	人	0.00 0.00	0.00 0.00	0.00 0.00
訪問支援サービス利用契約数	件	0.00 3.00	4.00 3.00	4.00 0.00

【定性評価】

カテゴリ	評価の観点	基準	ランク
1	必要性 国・県・民間等との補完性	1 国・県・民間等がサービスを行っていない 2 国・県・民間等のサービスは不十分で、市で補完する必要がある 3 国・県・民間等が同様のサービスを行っている	2
2	理由 必要性 市民ニーズの有無	1 市民ニーズは充分にある 2 社会情勢の変化等により市民ニーズは低下している 3 市民ニーズはない又は不明である	1
3	理由 有効性 目標に対する進捗状況	1 目標を上回る又は目標どおりの進捗である 2 目標を下回る進捗状況である 3 進捗はかなり遅れている	1
4	理由 効率性 事業の効率化・事業費の削減	1 事業手法の検討や事務改善に取り組み、具体的な成果を上げている 2 事業手法の検討や事務改善に取り組んでいる 3 事業手法の検討や事務改善にあまり取り組めていない	2
5	理由 公平性 事業規模・サービス水準	1 環境変化や他自治体等と比較して適正である。 2 環境変化や他自治体等と比較してあまり適正でない。 3 環境変化や他自治体等と比較して適正でない。	1
	理由	国のガイドラインに則り一貫性のある療育を提供しています	

【1 次評価結果】

事業の方向性	維持・継続
1 次コメント (4 0 0 文字)	支援が必要な児童を受け入れ、必要な療育支援を行いました。保育所等訪問支援事業は、3 件の申し込みに対し延べ 1 0 回の訪問支援を行いました。 外国にルーツをもつ児童の受け入れは、コミュニケーションの問題から支援方法に課題はあるが、令和 8 年度は 1 2 名（全体の 2 4 %）を受け入れて必要な療育支援を行う予定です。今後も施設内所属の通訳者との連携を図ると共に、通話電話やアプリ等様々なツールを駆使して適切な事業運営と効率化に取り組んでいます。

【2 次評価結果】

事業の方向性	評価未実施
2 次コメント (4 0 0 文字)	本事業においては、2 次評価を実施していません。